

水沢で
交流会
陸前高田の米生産者ら招き

「徐々に復興のつち音が聞こえ始めている」と話した陸前高田市の米生産者佐藤信一さん

奥州♡絆の会

「思い」に触れて
探る被災者支援奥州市内のボラン
ティア団体「奥州♡絆

の会(渡辺明美会長)は11日、水沢区聖天の水沢地区センターで交流会「3・11を忘れない」を開いた。陸前高田市の米生産者を講師に招き、復興の状況に理解を深めながら被災者支援の方向性を探った。

復興支援とともに記憶の風化も防ごうと毎年開催する交流会。今回は陸前高田市の米生産者の会「たかのゆめ」部会の佐藤信一部会長(66)ら3人が事例報告や基調講演を繰り広げ、会員や市民ら約50人が耳を傾けた。

佐藤部会長は、震災を機に企業の支援を受けて生産に乗り出したブランド米「たかのゆめ」を通じた活動を報告。昨年11月にブランド化研究会を立ち上げ、農家の所得向上や従事者の確保など元気で活力ある地域づくりを目指していることを紹介した。

「沿岸では米の収穫量が限られる。『たかのゆめ』を起爆剤に三陸の豊かな海をPRしたい」と佐藤部会長。同米を用いた駅弁を盛岡、一ノ関、東京の3駅で限定販売するなど多彩な企画を打ち出し、農業の復興へ情熱を傾ける。

古里や応援したい地方自治体に納税し返礼特典を受けられる「ふ

るさと納税制度」にも触れ、「返礼品として『たかのゆめ』を打ち出すなどしながら、復興へオール高田で取り組んでいきたい」と語った。